

○佐藤裕紀子* 湯沢雍彦** 川崎末美** 中原順子*³ 草野篤子*⁴ 林文**

(*東京家政大・非, **東洋英和女学院大, *³日本女大通信, *⁴信州大)

<目的>(1)に同じ。本報告では特に生活時間に注目し、既存のデータが示す生活時間の内実を探るとともに、その背景にいかなる家族関係が存在し、どのような子育てが行われているのかを明らかにすることを目的とする。<方法>(1)に同じ。

<結果>①既存のデータにおいて、交際時間が平日でも1時間12分と長い背景には、残業よりも早朝出勤という「前倒し」の労働時間システム、地域の友人と共に家族単位で自由時間を過ごす習慣やそれを大切にする価値観がある。②子どもの世話を費やす時間は20代・30代で週平均22分と短い。しかし夫婦間で出勤時間を調整して子どもの託児施設への送迎を分担し、夫婦どちらかの通勤時間に子どもに関わっている場合が多いため、子どもの世話を費やす時間が短いとは判断できず、親子の共有時間はむしろ長いといえる。③時間使用における意志決定を重視する発想が幼い頃からの教育の基礎にあり、それが仕事以外の時間を充実させる姿勢に影響している。④家事に関しては、週平均時間が2時間25分と短いこと、男女間の家事時間配分は比較的平等に近いことが特徴的である。効率的な家事の背景には料理・洗濯・掃除などは妻が担当し、家屋や家財の修理・庭の手入れなどは夫が担当するなど領域によって夫婦間における分担がなされていること、平等の背景には女性の高い就労率、自立と平等を尊重する教育がある。